

教育相談だより

静岡県立沼津視覚特別支援学校
eye 愛センターぬまし

令和8年10月 第3号

さんふらわあ

医療・福祉・教育担当者研修会

9月17日に視覚障害児者にかかわる医療・福祉・教育関係の方々との研修会を実施しました。今回は、市役所福祉課職員、保健師、視能訓練士、保育士など24名の方々にご参加くださり、授業参観や視覚障害関連機器等の紹介、体験活動などを行いました。授業参観後には、見学した方々からは、少人数での授業の進め方や子ども同士のコミュニケーションの力を高める工夫などについて質問があり、じっくり丁寧な学びを保証するために学習内容を精選すること、高学年児童を中心に全学年で活動する場を意図的に設けていること、近隣の小学校や居住地の学校との交流を行っていることなどをお話しました。また「児童生徒の将来のことも考えてサポートしていることが分かった」「行政窓口にも、点字だけでなく拡大読書器などがあれば、自身で手続きしやすくなる人も増えるだろうと感じた」などのご感想をいただき、今後の連携にもつながるとても有意義な時間となりました。



《参加した皆様のご感想》

関連機器の紹介

★読書視力測定チャート「MNRead」

★拡大読書器、その他支援機器 ★白杖

「道具を実際に使ってみて、その利便性を知れた」「拡大読書器などで昆虫の細かいところ（蟬の羽）を見られて感動した」「白杖の体験をして、見えない所を歩くのは怖いと感じた」「健常者でもあったら使いたいと思うようなものがあり、もっと普及するといいなと思った」



体験活動

★「点字・触察」 ★「手引き歩行」

★「障害者スポーツ（サウンドテーブルテニス）」

「手引き歩行を体験して、声かけが大事だと思った」「触るだけの理解と見て理解する違いがよく分かった」「サウンドテーブルテニスは通常学級の子も楽しくやれそうだった」「視覚障害者とも同じように楽しめるスポーツが、より広がるとよいと思った」





PTA 講演会 ～和太鼓奏者 片岡 亮太さん～

9月11日に和太鼓奏者の片岡亮太さんをお招きし、児童生徒への太鼓指導とPTA講演会を実施しました。片岡さんは弱視で生まれ、小学5年生の時に視力を失い本校に転校して中学卒業までを過ごし、大学卒業後はプロの和太鼓奏者として海外へも活躍の場を広げています。片岡さんは視覚障害当事者であり、演奏家・指導者でもあり、社会福祉士の資格もお持ちで、大学の先生の「社会福祉という言葉が必要ない世界が理想」という言葉に感銘を受け、演奏の場で当事者＋福祉士という新しい視点で福祉について語ることで、福祉への理解を広げることができると考えながら活動をされています。



躍動感あふれた迫力ある和太鼓演奏と楽しいお話の中で、生徒たちに『知らない人』『知らない経験』『知らない自分』との出会いが人を成長させる。それは特別なことではなく、今いる環境で出会うことの中からも気づけることがたくさんある」「嫌なこと、悲しいこともあるが、そこから新しい自分に出会うこともある。だからこそ安心安全な当たり前の環境から一歩前へ出てみるのが大切だ」とメッセージをくださいました。また、保護者には「勇気を出すきっかけを与え背中を押してあげてほしい。小さな出会いの積み重ねが、思いもよらぬ人生が広がるきっかけになる」と励ましの言葉をくださり、話に聞き入るみなさんの大きくうなずく姿が印象的でした。



『ビジョンサポート機器展 in 浜松』より

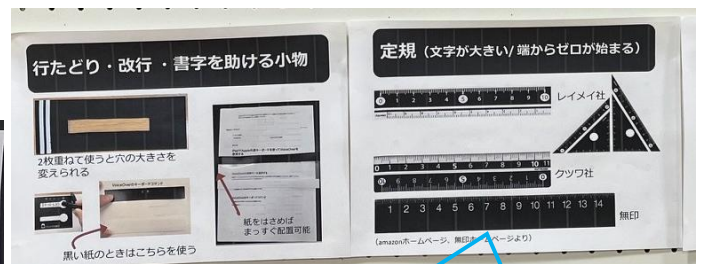
昨年度、沼津のプラザヴェルデで行われた「ビジョンサポート機器展」が今年度は浜松で開催され、300人近くが来場しました。中には東部地区から駆け付けた当事者の方もいらっしゃり、関心の高さがうかがえました。会場には視覚補助具や支援機器の他、医療、福祉、教育関係の相談コーナーもあり、中でもロービジョンコーナーでは個々の見え方を本人や家族に説明したり、その人に合った支援機器や文具、生活用品などの工夫の仕方を紹介したりしていて「来てよかった」という声がたくさん聞かれました。

まっすぐ書いたり文章を読みやす
したりする道具。自作もできます。



まぶしさを感じる人には
見やすい黒いボード。

白い場所に白いものを
置く時には、その間に
濃い色のマットを敷く
だけでわかりやすく！



目もりの見えにくい子には
黒字に白の線の定規の方
が見やすいことも多い。

その他の工夫も本校で
情報提供しています！